平成28年（2016）
阿づまの光
6月号・Junio

教主さまお作 灰釉茶盌 銘「人群万類愛善」

【金龍海沓島冠島土＋金龍海五大洲土
本宮山松＋月宮宝座松＋二代教主さまお手植え神島松＋金字松＋
元屋敷松＋木の花桜＋竜宮海海水＋金明水＋玉水＋龍宮神社水釉】

題字 出口直日

通巻第567号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

天地（あめつち）のめぐみの露（つゆ）のなかりせば
青人草（あをひとぐさ）の如何（いか）で栄（さか）えむ

出口王仁三郎聖師

都会のオアシスプランター

東京宣教センター次長　猪子　恒

今、東京宣教センターのプランターが元気です。

夏野菜の前の「葉もの」、ベビーサラダミックス（ミニレタス）、赤丸ハツカダイコンが少し虫に食われながらも青々と、万能葉ネギは、細い針のような姿で育っています。

今春は3月の下旬に作業をしました。例年お世話になっていた埼玉の支部長Sさんの代わりに、愛善みずほ会にいらした小藪資史特派の指導で、職員数人でプランターの準備「土作り」をしました。これまで使っていたプランターの土をひっくり返して、今年も購入した一袋の「腐葉土」と混ぜ合わせ、プランターにもどしながら、肥料の「明星」も入れてゆきます。

こうして準備ができたので、今年は「苗」ではなく、早速、タネまきです。

作業をする日程を相談する中で「早くタネをまけば、葉ものが、夏野菜の前に収穫できる」「間引き菜で、サラダを」「ネギは結構、使う」などの声に励まされて、「土作り」と同じ時に、先ほどの3種類のタネをまいたのでした。

4月初旬、参拝にやってきたSさんが、発芽して数日のプランターを見てくれました。「ネギは時間がかかるけど、葉ものはすぐ育つさ」と。その言葉通り、アッという間に、間引き菜が収穫できるようになり、ご神前にお供えもして、既に何度か、東京本部の食卓にも上っています。

シャキシャキした歯ごたえ、新鮮な野菜は、とっても美味しいのです。

間もなく、夏野菜に入る予定です。多分、トマト、ナス、キュウリ、ピーマンなどの、ほぼ昨年と同じものが植え付けられる予定です。また、日課の「水遣り」、成長に合わせての「添え木」、「ネット張り」、「防虫」と、いろいろなお世話が続きますが、いただく実りが何よりです。

それにしても、お土はすごいですね。こんな風に命の糧を生み出してくれているのですから。都会のビルの谷間で日照時間が少なく、時には強烈なビル風にさらされる過酷な環境でもけなげに育つ野菜、お土に感謝しつつ・・・　今年もエールを送りたいと思います。

oomoto 公開講座

大本とは②

～出口王仁三郎の世界観～

東京宣教センター次長　猪子（いのこ）　恒（ひさし）

巨人出口王仁三郎

大本教祖の出口王仁三郎聖師は、瑞霊の神格に満たされたおはたらきであると示されています。大本教法の第3章には、瑞霊について「万民の罪を贖わせたまい、救世主神として顕幽両界を救いたもう」とあります。王仁三郎聖師の役割を一言でいうと、救い主という表現が一番わかりやすいかと思います。

もう一人の教祖、出口なお開祖と比べると、王仁三郎聖師は縦横無尽といいますか、全く型にとらわれない人物だったとイメージしていただいたらよろしいかと思います。

ある人が書いたインターネットのブログに、有名人が王仁三郎の印象を述べた言葉が紹介されています。例えば、作家の吉川英治氏は王仁三郎のことを「千年に一人出るか出ないかの人物」と評していますし、元京都大学名誉教授の上田正昭氏は、「優れた芸術家であり、傑出した思想家であり、世界屈指の宗教者」と表現しています。

大本は日本の新宗教の中で
高い評価を受けている

そして、このブログの作者は、王仁三郎聖師ほどスケールの大きな人は世界史上でも稀である。それなのに、これまで正当に評価されていないのではないか？　教科書にも出てこないし、マスコミもあまり取り上げてくれない、と言っています。

しかし生前、王仁三郎聖師は宗教家としてのみならず、政界、経済界、芸術界にも大きな地下水脈を築いて、いろいろな活動を展開しました。王仁三郎の影響力は、今でも少なからず残っているのではないでしょうか。

平成19年（２００７）、宗教学者の島田裕巳氏が書いた『日本の10大宗教』（幻冬舎新書）という本が出ました。その2番目に大本が紹介されています。島田氏は、日本の新宗教のなかで、大本ほど高い評価をされている教団はないと言っています。同時に、大本を研究するのは難しいとも言っていて、その理由は「出口王仁三郎が常識をはるかに超えた人物」だからだそうです。

出口王仁三郎聖師の修行の地
「霊山高熊山」

王仁三郎聖師の悟り

王仁三郎聖師（当時は上田喜三郎）の人生のターニングポイントは28歳で体験した高熊山修行（京都府亀岡市）でした。明治31年（旧暦2月9日から一週間）のことです。

この修行によって、王仁三郎聖師の霊力は急速に発達し、その程度は、幼稚園児が大学を卒業して、博士の地位に瞬間に進んだようだと表現しています。

王仁三郎聖師は、いわゆる超能力者となるわけですが、同時に人としての悟りを得ます。それは、世界一切の生き物には神霊、いわゆる神の仁慈が宿っているということです。のちに別な言い方で「万物は神の断片である」と説いています。

王仁三郎聖師は、私たち人も神の一部（断片）であると悟ったのです。人の体も、こころ（霊）も、そして人が発揮する力も、もとは神からのものであると。霊力体の三位一体が神の姿そのものであり、人はこの霊力体を神から賦与されている。このことは、本日のテーマを展開するなかで根幹となる大本の教理です。

高熊山修行から23年後の大正10年、王仁三郎聖師は教典『霊界物語』（全81巻83冊）の口述を始めます。

人の役割とは

大本の教義では、「神は万物普遍の霊にして人は天地経綸の司宰者なり」と説かれています。このことも非常に重要で、この世を実際に動かすのは、神と同じ性質を持った人間なんだよということです。

自然のものは、人が手をかけずに放っておいても変わっていきますよね。ですが、さらに人が手を入れて環境を守る、穀物や果物なら品種改良をして質と生産性を高めることができる。このように人が自然と調和して万物のリズムを整えていくことを考えると、やはりこの世において、人の知能やはたらきは重大で不可欠といえます。そこで、人はこの自然界の実行役であり、主体なのだと王仁三郎聖師は説いているのです。

昨今の自然環境問題については、人間が知恵を出し合って進めていかなければ解決できないことが多いですね。それには人に本来備わっている、神心を発揮してはたらくということを中心におかなければなりません。神の意志を享けて力を発揮するのが、人の本来あるべき姿と教えられています。

万教同根

王仁三郎聖師は「万教同根」という思想を掲げました。主神が宇宙を創造された。天地がわかれ人類が誕生した。その歴史のなかで、さまざまな宗教（万教）が誕生した。宗教はこの世に起こったものであり、まさに字のとおり万教は同根、主神は一柱ということです。

『霊界物語』第6巻の23章には「万教同根」についてふれていて、神が時や所によって変現される様子が書かれています。例えば、月照彦神（つきてるひこのかみ）は釈迦、少彦名司（すくなひこなのかみ）はキリスト、天道別命（あまちわけのみこと）はモーゼとなって現れていて、いずれも神の分霊であり、分身であると説いています。

さらに時代によって、野立彦命（のだたちひこのみこと）は老子、弘子彦司（ひろやすひこのかみ）は孔子となって現れる。つまり、救世神がその時代に、名前を変えて出現すると書かれているのです。神は時代の必要に応じて、身を分けて、おはたらきを分担して救いの神業を実行されると、このように思っていただいたら結構です。

人類愛善

王仁三郎聖師は「万教同根」の思想のもと、大正14年に「人類愛善会」を創立します。人類愛善とは、人群万類に神のご神格である愛と善が及ぶことで、会の主旨目的は、人類は本来、兄弟同胞であり、一心同体の精神に拠ります。

「人は神の子神の宮」で、どんな人にも等しく神性をいただいているという、大本の教義の根幹が、人類愛善の精神です。この世の全てのものは神の断片であるので、人種や言語の違いで別け隔てしてはいけないと王仁三郎聖師は戒めています。

そう考えてみますと、今、私たちが直面している諸問題の解決口は、「万教同根」と「人類愛善」に集約されるのではないかと思います。そうは言っても、歴史を振り返ると人類は争い、殺し合いを繰り返しています。しかし、これは人間の心に潜んでいる獣性であって、本来は肉体を保つためのもので、あくまでも神性が主であるべきなのです。

大本は昭和10年に当局から弾圧を受けました（第二次大本事件）が、戦後完全に無罪となります。弾圧によって、さまざまな犠牲が生じましたが、大本は国家に対して、一切の賠償請求はしませんでした。王仁三郎聖師は、当時大本が戦争に加担しなかったことは、世界平和への先駆け的な役割があったと、のちに述べています。このことも王仁三郎聖師を語る上で、重要なエピソードだと思います。

「万教同根」の姿を象徴する
カトリック教会とロシア正教会との和平会談

私たちが進むべき道

現代はＩＳなどの宗教同士の争いが起こっています。これは宗教という冠をかぶってはいますが、その奥底には人間の利己主義がそうさせているように思います。宗教そのものが「人を殺しなさい」とは、決して言わないです。ですから、宗教が争いを起こしているというのは、曲解といってもよいかと思います。

２０１６年2月12日、ローマ教皇のフランシスコはキューバの首都ハバナでロシア正教会のモスクワ総主教キリル一世と会談しました。会談後、両者は中東などで続く過激派によるキリスト教徒迫害やテロに対し、国際社会の緊急対処を呼びかける共同宣言に署名しました。これにより、１０５４年に分裂した東西教会は本格和解に向けて歴史的な一歩を踏み出しました。これこそまさに「万教同根」の姿を象徴した場面だと思います。こういうことが今後、宗教間に行われていくと考えるべきです。

実は、大本はこれまで、いろいろな宗教と結んで実行してきています。世界平和に向けて会議を開きましょう。一緒に祈りを捧げましょうと呼びかけてきました。王仁三郎聖師は、真の世界平和の実現へ向けて、「人類愛善」と「万教同根」を一貫して説きました。それを実行していくのが私たちの役割でもあります。

掲載文は、平成28年2月17日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

企業繁栄祈願祭

第34回企業繁栄祈願祭は、4月24日午前10時30分から執行され、49人が参拝した。

祭典は祓式行事、大神奏上に続いて、斎主が市杵島姫命さまに「企業繁栄祈願祭祝詞」を奏上。全国から申し込まれた、173社の企業名が読みあげられ、世界経済の発展と繁栄を祈願した。

次いで、各企業の代表者が玉串を捧奠し、一同で「神言」を奏上、讃美歌を斉唱した。

祭典後、東光経友会を代表して、猪子恒代表幹事があいさつ。その後、山田眞（株）熊野屋執行役員・営業本部副本部長が「つねに百歩先を見つめて」と題して記念講演を行った。

東光苑月次祭

東光苑月次祭・市杵島姫命例祭は、5月8日午前10時30分から、斎主・高野春樹祭務課長のもと執行され、320人が参拝した。

祭員は福島・群馬・東京・神奈川の四主会合同、少年祭員は神奈川主会の草野友哉くん、伶人は宮咩会関東支部、大本神諭拝読は中島浩山梨主会長が担当した。

祭典後、猪子恒東京宣教センター次長があいさつに立ち、教主さまのみろく大祭ごあいさつを紹介しながら、「教主ご就任十五年の中で、いくつかの出修の神事や、さまざまなご神業の百周年、また開教百二十年と、大きな節目が続く時代になっている。私たちは、教主さまのご教導のもと、ひらけゆくみろくの世へのご神業奉仕に、一層まい進させていただこう」と述べた。

また、祭典後には合唱団・東京主会あづまによる愛善歌「覚醒」がエスペラントで奉納され、同主会による添釜も祭典に花を添えた。

エスペラントによる愛善歌「覚醒」のハルモニーオが殿内に美しく響き渡る（東京主会あづま）

大本公開講座

「第159回大本公開講座」は、5月18日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、加藤眞三慶應義塾大学看護医療学部教授が「患者の力を身につける～がんの時代を生き抜くために～」と題して講演した。参加者は51人（内、一般18人）。

講座では、「大本が説くように、時代はあらゆる分野で大転換期を迎えている。医学・医療も同じで、がんについても同じことがいえる。現代医療はさまざまな選択肢が患者に与えられている。患者力を高め、賢く生き抜くことが必要」と結んだ。

参加者からは、「がんと生活習慣の関係等、新たな知識が増え、大変勉強になった（女性・一般）」等の声が寄せられた。

東京本部直属信徒研修会

日　時　6月26日（日）
午前9時（受付）～午後4時半ごろ

会　場　東光苑　　**参加費**　1,000円
※昼食1回・資料代・記念写真代含む
但し、家族2人目から500円
※期間外の食費・宿泊費は別途となります

定　員　40人
※希望の方には宿泊のお申し込みを承ります

持ち物　筆記用具
※宿泊される場合は入浴・宿泊具などをご持参ください

内　容　愛善歌の練習・茶席入席・お作品拝観
講話「神まつり、みたま（祖霊）まつり」・「信仰について」・実習「大本宣伝歌」
歓ぎの座・総合質問会、等

締　切　6月20日（月）

申込先　東京宣教センター・愛善宣教課

●離任あいさつ

総務管理課主任　田村（たむら） 信行（のぶゆき）

この度、南九州教区の特派宣伝師を拝命いたしました。

関東教区の皆様には11年8カ月と長い間、大変お世話になりました。

南九州へ行ってからも東京本部、関東教区での経験を活かし、精一杯ご奉仕させていただきたいと存じます。最後になりましたが、関東教区の皆様の益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

愛善宣教課　穴井（あない） 賢太郎（けんたろう）

この度、大本青年部事務局に異動となりました。

短い間ではありましたが、その期間に見合わないほどのありがたい経験をさせていただきました。

関東教区のみなさまには、本当にお世話になりました。聖地でお会いできることを楽しみに、ご奉仕にまい進させていただきたいと存じます。

東光苑祭典・行事予定

6月

12日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・人類愛善会創立記念祭典・市杵島姫命例祭

15日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題　祝詞のこころ～感謝と祈り～
講師　西山桂一郎（大本青年部長）

26日（日）午前9時（受付）～午後4時30分
東京本部直属信徒研修会

7月

10日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭

20日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題　神と人の関係～人は神の子神の宮～
講師　中里洋（教学研鑽所事務局員）